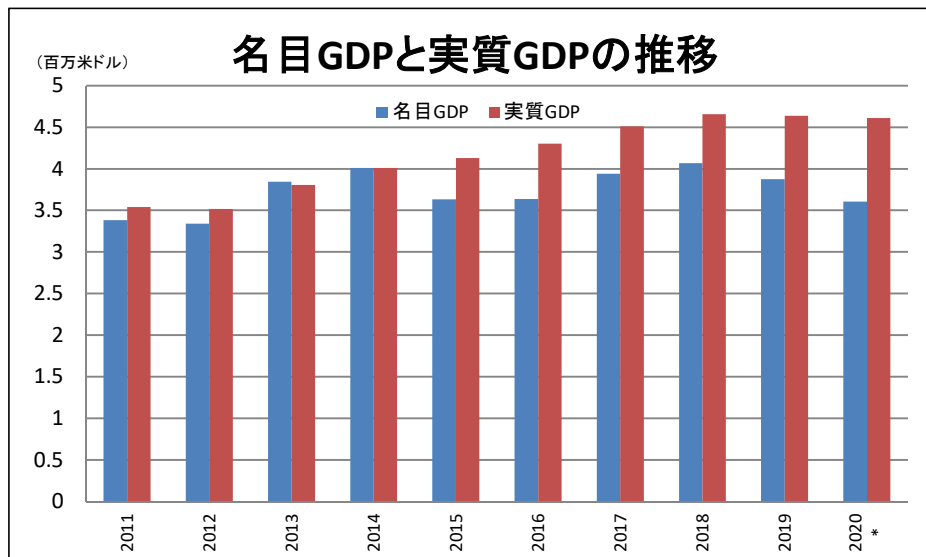


# パラグアイ主要経済指標(2020年11月)

※ I ~ VおよびVIIは全てパラグアイ中央銀行発表データ

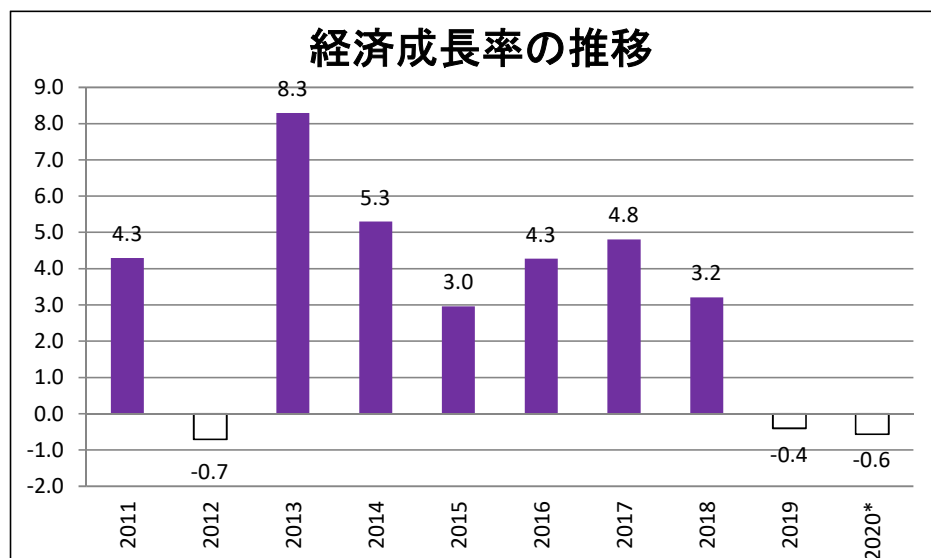
## I 名目GDP・実質GDP・経済成長率

●11月時点で2020年度の名目GDPは36,049百万米ドル、  
実質GDPは46,098百万米ドルと推定されている



※2019年は暫定値、2020年は推定値

●11月時点で2020年の経済成長率は-0.6%と推定されている。



## II 貿易

### <2020年11月貿易データ概要>

#### (1)輸出

11月の輸出総額は722,471千米ドルであり、1～11月の総額は7,840,730千米ドルとなった。

##### \* 前年度比5.3%増

(大豆種子33.4%増、大豆油4.9%増、大豆粉5.9%減、穀物6.7%減、肉類7.7%増、電力7.6%減、自動車部品(ハーネス)38.2%減、その他7.9%増)

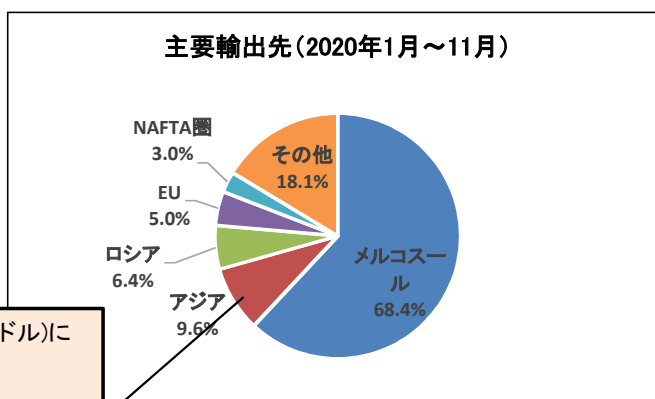
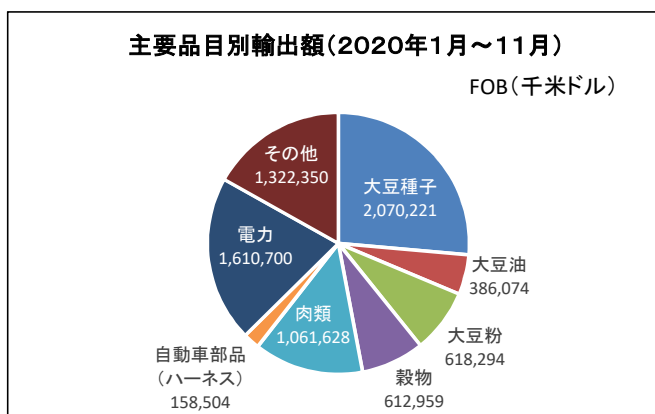
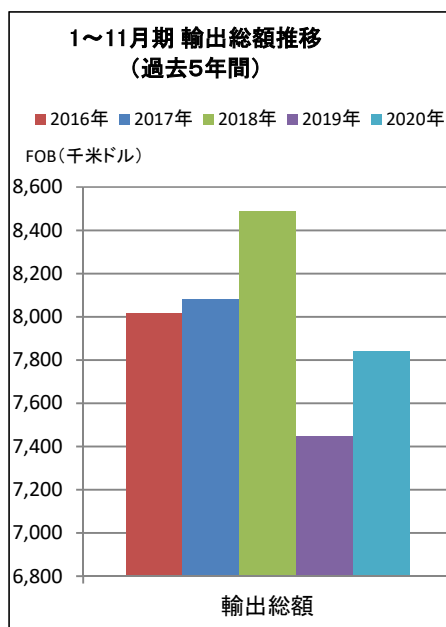
#### (2)輸入

11月の輸入総額は821,001千米ドルであり、1～11月の総額は8,511,199千米ドルとなった。

##### \* 前年度比20.3%減

(食料品1.3%減、酒類・タバコ20.6%減、紙・布類・薬・衛生用品等19.7%減、燃料25.8%減、自動車・電子機器等27.0%減、化学製品・薬品11.0%減、機械類・部品25.5%減、その他20.0%減)

#### (1)輸出



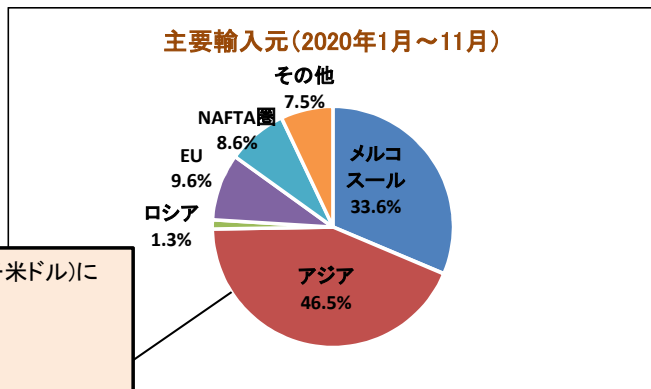
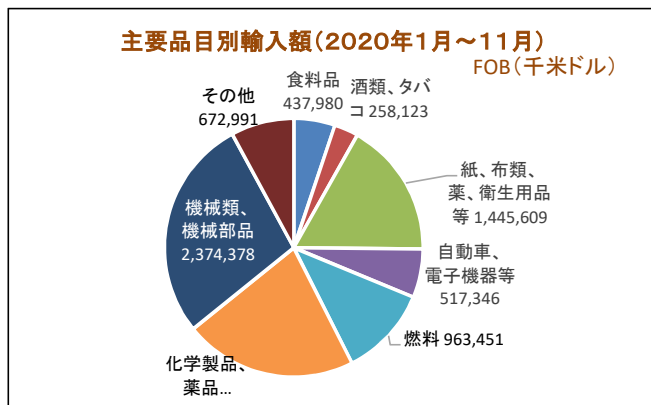
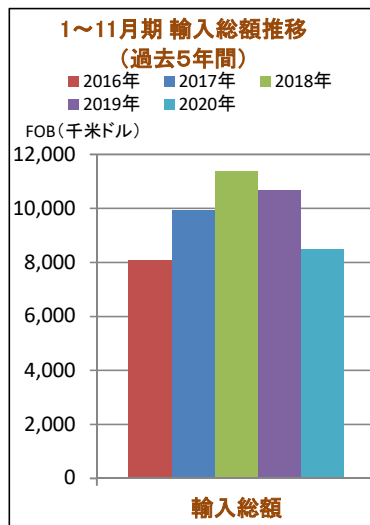
【アジア向け輸出(総額678,643千米ドル)に占める割合】

台湾: 112,509(千米ドル)【18.4%】

日本: 56,260(千米ドル)【9.2%】

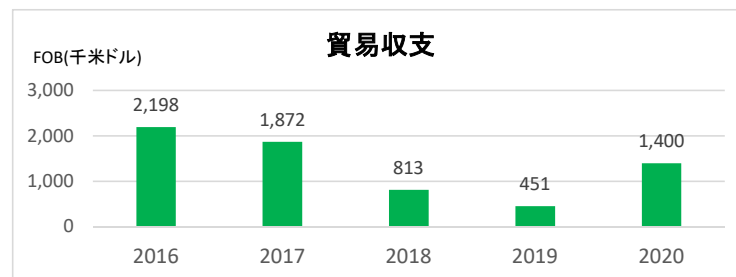
中国: 12,195(千米ドル)【2.0%】

## (2) 輸入



【アジアからの輸入(総額3,250,727千米ドル)に占める割合】  
 台湾: 21,004(千米ドル)【0.6%】  
 日本: 168,448(千米ドル)【5.2%】  
 中国: 2,293,913(千米ドル)【70.6%】

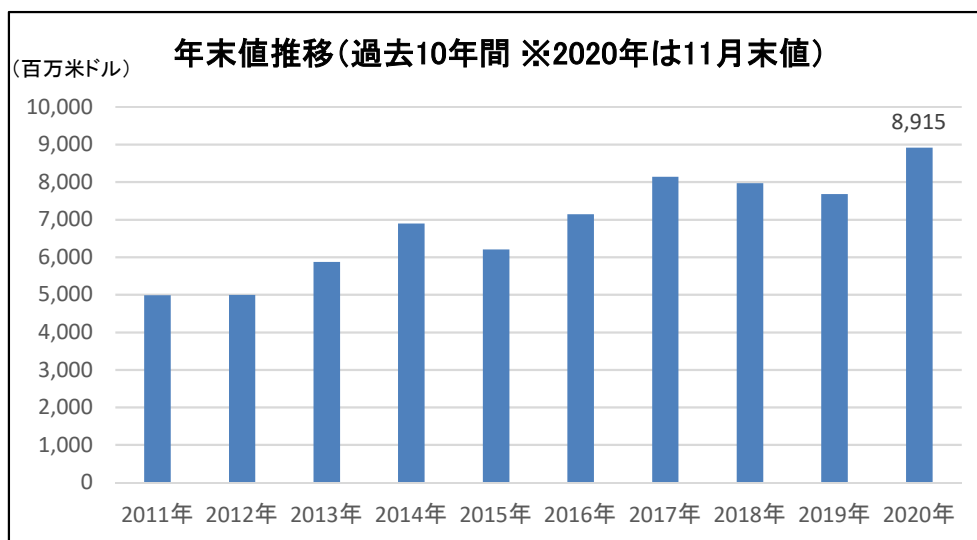
## (3) 貿易収支(過去5年間、再輸出等を含めた総額ベース)



※2020年は1～11月データ

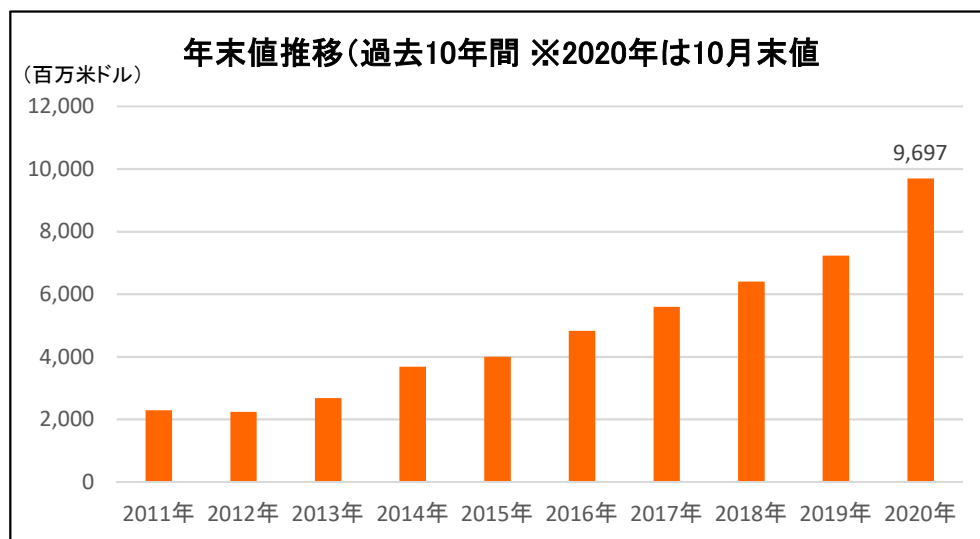
### Ⅲ 外貨準備高

2020年11月末の外貨準備高は、約8,915百万米ドルであった。



### Ⅳ 対外累積債務

2020年11月末の対外累積債務は、約9,697百万米ドルであった。



## V 消費者物価指数

### <消費者物価指数概要>

#### (1) コア・インフレ

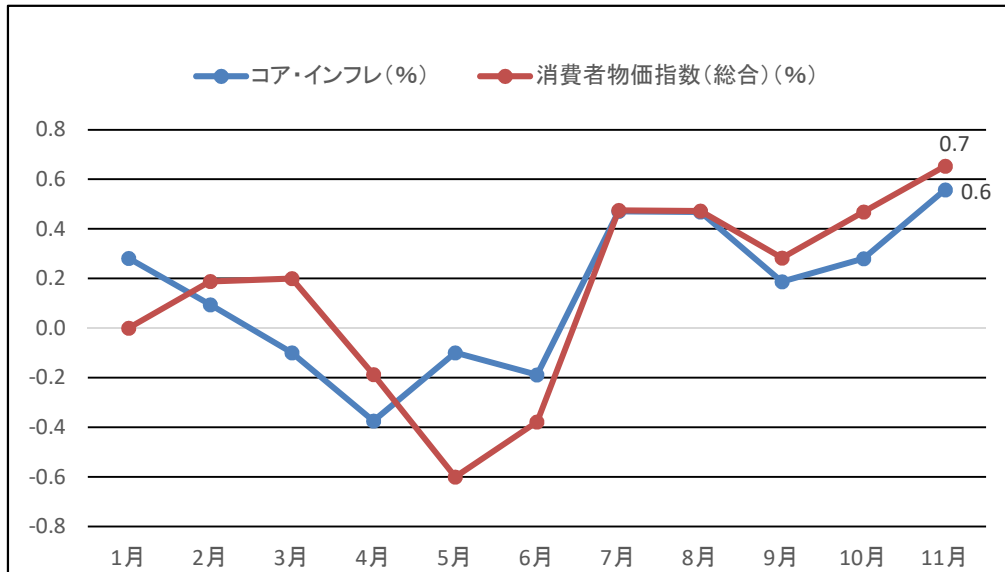
11月のコア・インフレ率は0.6%となり、年間累計値は1.6%となった。

\*小数点第二位切上げ

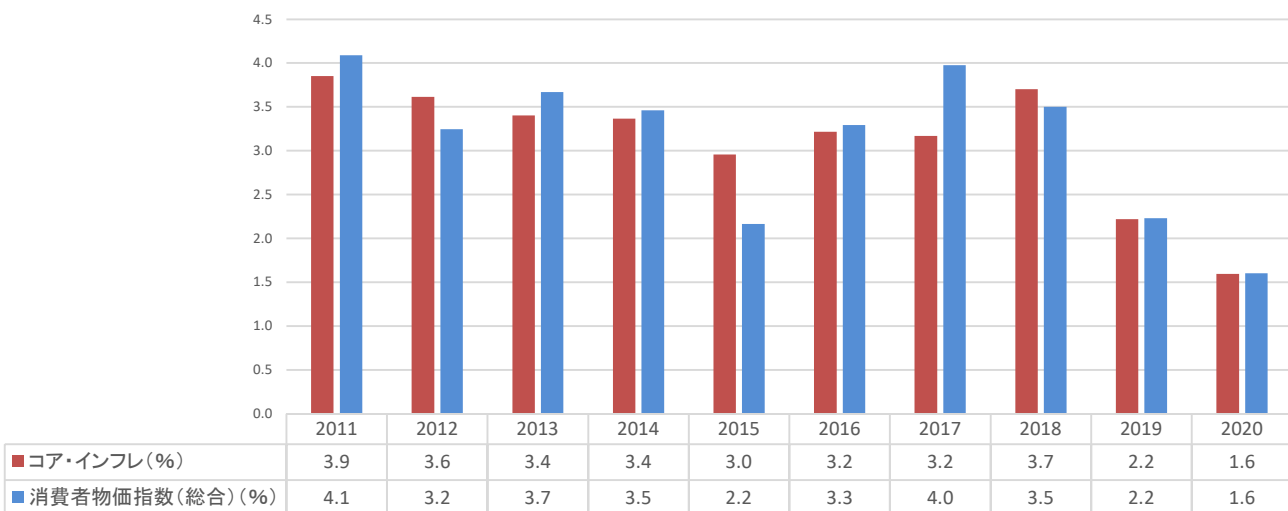
#### (2) 消費者物価指数上昇率(総合)

11月の消費者物価指数上昇率(総合)は0.7%であり、年間累計値は1.6%となった。

### <2020年1月～11月推移>



### 【参考】2011～2020年 年間累積値(11月時点)比較



## VI 雇用統計(パラグアイ統計局発表)

※10月より変更なし

2020年第3四半期の失業率(全国)は8.2%であり、前期より0.6ポイント上昇した。男性5.8%、女性11.5%であり、新型コロナウイルス感染症対策の接客業などの休止により、女性の失業が深刻化している。

### <2020年(四半期)失業率(%)推移>

期間	全国	男/女(全国)	都市/農村
第1四半期	7.9	6.3/10.1	8.8/6.4
第2 "	7.6	6.7/8.8	9.1/4.9
第3 "	8.2	5.8/11.5	10.1/4.7

※BoquerónとAlto Paraguay除く

### <最低賃金>

2020年11月現在:2,192,839グアラニー

参考:最低賃金の改定歴(2010年~, グアラニー)

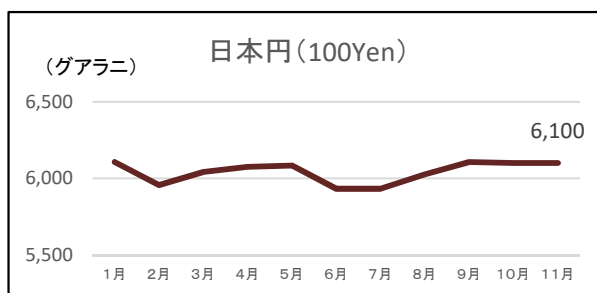
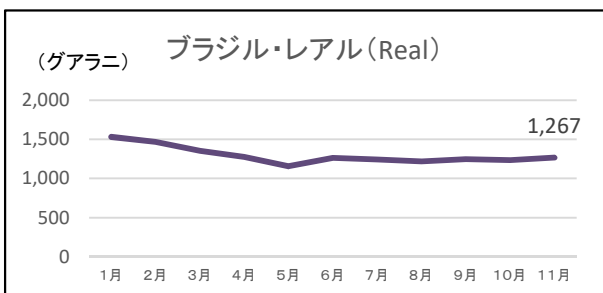
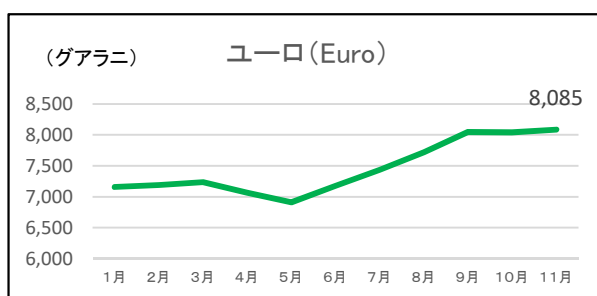
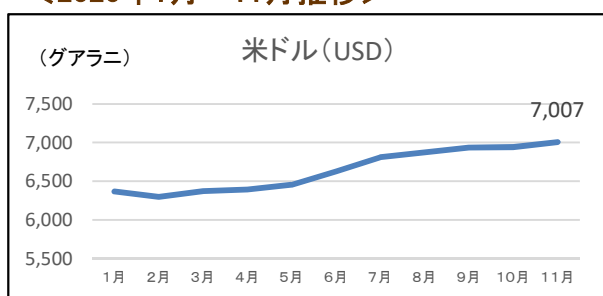
改定日	最低賃金	一日あたりの賃金	前回からの増加率
2010年7月	1,507,484	57,980	7%
2011年4月	1,658,232	63,778	10%
2014年3月	1,824,055	70,156	10%
2016年12月	1,964,507	75,558	7.7%
2017年7月	2,041,123	78,505	3.9%
2018年7月	2,112,562	81,252	3.5%
2019年7月	2,192,839	84,340	3.8%

## VII 為替相場

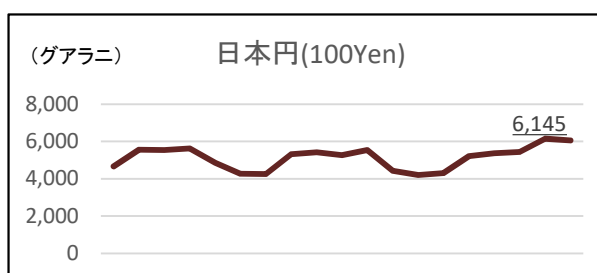
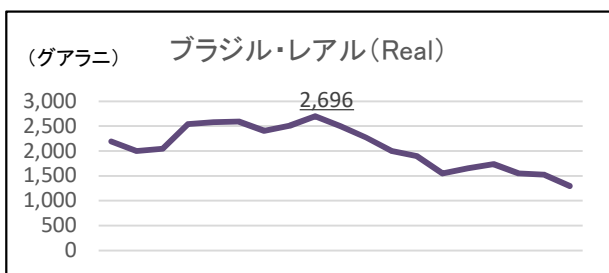
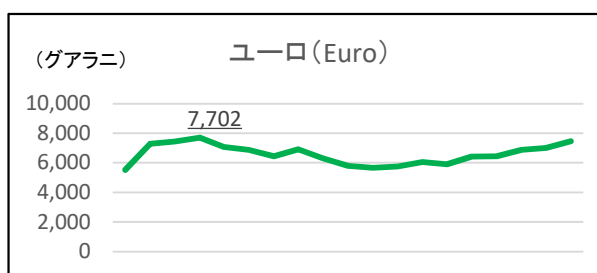
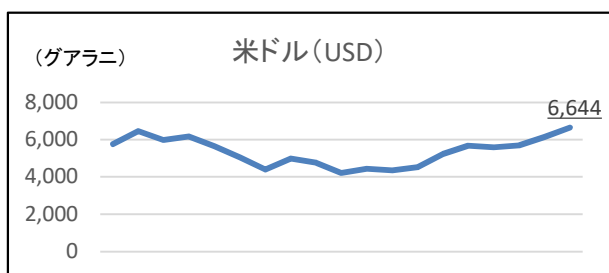
＜為替レート概要(月平均値、売値)＞

- (1) 対ドル(Gs/US\$)  
11月の対ドル為替レート(Gs/US\$)は7,007 Gsとなった。
- (2) 対ユーロ(Gs/EURO)  
11月の対ユーロ為替レート(Gs/EURO)は8,085 Gsとなった。
- (3) 対リアル(Gs/REAL)  
11月の対リアル為替レート(Gs/REAL)は1,267 Gsとなった。
- (4) 対日本円(Gs/円)  
11月の対日本円為替レート(Gs/円)は6,100 Gsとなった。

＜2020年1月～11月推移＞



【参考】各主要通貨対グアラニ為替相場: **年平均値推移(2002～2020)** (下線部は最安値)



## VIII 11月の経済トピックス

### 1 自動車部品業者による陳情

パラグアイ自動車部品産業連盟（AIAP）のクアドロ会長は、アブド・ベニテス大統領は、国内の自動車部品企業の経営者への支援を行っておらず、産業を支えるような戦略が取られていないため、同産業が生み出す雇用への支援がなされていないと訴えた。新型コロナウイルス感染症の拡大初期には、同産業の30～40%に相当する約1万人を解雇せざるを得ず、感染症拡大以前には自動車部品がマキラ体制下での主な輸出品であり年間で3億ドルの利益があったことを考慮すると、この問題は小さいものではなかった。また、同会長は、自動車部品業界の稼働状況は、感染症拡大以前の75%であるが、来年は増加の見通しがあり、1年以上前に伯との間で自動車協定に署名したことから、現時点まで協定に関係した新たな計画は見られないが、2021年の末に新たな計画が持ち上がると考えていると話した。さらに、レアルの為替レートが好調のため伯での製造のほうが安価であることを理由として、パラグアイの製造業は、伯との関係で競争力を失っており、多くの国がパラグアイではなく伯での製造を行うようになるのではないかと懸念していると述べ、パラグアイ政府はこの点に気を配っておらず、大きな損害が生じうると付け加えた。

### 2 韓国によるパラグアイへの支援

2020年に実施される韓国国際協力団（KOICA）を通じた韓国によるパラグアイへの無償支援は約1,600万ドルとなる見通しである。KOICAによると、パラグアイ国家開発計画2030に基づき、パラグアイの持続可能な開発を支援するために他の国際機関と共同で主に4つの案件（サン・パブロ母子病院、サント・ドミンゴ高齢者用住居、家族保健ユニット20件の設置、セントラル県イタウグア市の道路整備技術研究所の設置）で、プロジェクト、研修、ボランティアプログラム、官民連携が行われている。

### 3 グレープフルーツ果汁の輸出第8位

現在、パラグアイは世界第8位のグレープフルーツ果汁の輸出国となった。国内では様々なセクターが商工省の投資輸出促進局（REDIEX）による支援を受けて発展しており、ロメロ総局長によると、グレープフルーツ果汁を専門に輸出している企業は現在Frutika社およびTrociuk社の2社のみながら、ポテンシャルは高い。